

IEA石油市場レポートの概要（2016年10月11日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 9月の世界的な石油供給は、ロシアやカザフスタンの生産増により非OPEC加盟国が50万バレル/日近く上昇し、OPEC加盟国も過去最高水準の生産を行ったことにより、60万バレル/日上昇した。世界の石油生産は、OPEC加盟国の力強い生産増によって、9,720万バレル/日と、昨年から20万増加している。非OPEC加盟国の供給は、2016年に90万バレル/日減少し、2017年に40万バレル/日回復すると予想されている。
2. イラクの過去最高の生産やリビアの積み出し港再開により、OPEC加盟国の原油生産量は16万バレル/日増加し、3,364万バレル/日という記録的な水準となった。OPEC加盟国からの供給量は、中東の堅調な生産のおかげで2015年より90万バレル/日も多くなっている。OPECは、生産量を3,250~3,300万バレル/日の間に引き下げることに合意した（その詳細は11月末までに決定）。
3. 今年の需要は120万バレル/日伸びると予想されており、2017年も同じような成長が見込まれている。需要の伸びは引き続き鈍く、OECD加盟国の経済停滞と中国の著しい減速によって、5年ぶりの高水準だった2015年第3四半期から一転し、2016年第3四半期は4年ぶりの低水準に落ち込んでいる。例年より寒い天候の可能性が2016年第4四半期の成長を幾分回復させるだろう。
4. OECD加盟国の在庫は、原油貯蔵が季節的な落ち込みよりも大きく減少したことによって、3月以来初めて減少した（1,000万バレル減少し30.92億バレル）。9月の暫定的なデータは、原油貯蔵量が日本と米国の両国において減少していることを示している。
5. 秋の定期点検の影響で、2016年第4四半期の世界的な石油精製量は季節的に110万バレル/日低下することが見込まれる（前年同季比では7万バレル/日だけ精製量が増加）。2016年の世界的な石油精製量は前年比で22万バレル/日だけ増加することが予想されており、これは過去10年以上の間で前回の景気後退期を除いて最も低い増加。
6. 市場の均衡が続き、市場参加者がOPECによる生産量削減を予期したため、9月の原油価格指標は上昇した。本レポートの執筆時点で、ICEのブレントの翌月ものは53.05ドル/バレルで、NYMEXのWTIの翌月ものはより低い51.15ドル/バレルで取引されている。